



## 視察報告書

日時：	平成 31 年 1 月 11 日（金曜）13：00～14：30
場所：	岡山大学
面会者：	岡山大学 全学教育・学生支援機構 准教授 中山芳一先生
内容：	<p>□学童保育におけるこどもとのかかわり方について</p> <p>【課題】発達障害の有無に関係なく、土台になる考え方・「様々な課題を持つすべてのこどもたちをどうみていくか?!」（いきなり障害に飛んでしまうのが全国の傾向）病名と特徴を勉強して終わりになっている。それを可視化して終わりになるケースも。（⇒「だからなに？」がない）</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>そこで、「Inclusion」という考え方が大切。Inclusive な状態をどうつくっていきけるか？</p> <p>アメリカの DBU（ダラス・バプティスト・ユニバーシティ/小学校教員養成学校。）こちらの SE（Special Education）でラベリングすることや枠に収めることをするのではなく、障害を持った子ども達の特徴をさらにどう伸ばしていくことができるのかという考え方がある。</p> <p>➡その考え方を発揮しやすいのが学童保育。</p> <p style="padding-left: 2em;">マイナスをゼロにするのではなく、プラスを見つけ、その子たちをどう伸ばしていくかということ。</p> <p>【具体的な方策】</p> <p>育成支援の職務内容で、ミーティング自体が成り立ってない。ミーティングをカンファレンス的な場にしていけないといけない。<b><u>ここができなくて困っている。</u></b></p> <p>その考え方をもって事業を行っているのが民間学童保育「AMI 学童保育センター」</p> <p>【AMI の主な特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ数は最小限。</li> <li>・障がい者に対する加配はしない。</li> <li>・障がい児はいるけど inclusive ができている。</li> </ul> <p>徹底して、2 時間以上の Mtg の時間を設けている。子ども一人ひとりへの対応の仕方をみんな考えている。現場では、こどもとどう関わるかを考えないといけない。</p>

日時：	平成 31 年 1 月 11 日（金曜） 16：00～
場所：	倉敷市役所
面会者：	保健福祉局 子ども未来部 子育て支援課 課長内田敏郎氏、中島英彦氏
内容：	<p>□巡回コンサルテーション</p> <p>平成 29 年度からリハビリの先生だった中島英彦氏を再任用で登用。 134 クラブ（63 校の小学校）すべてを巡回。運営委員会への委託方式（66 の運営委員会へ委託）</p> <p>中島氏は支援員さんへの指導を作業療法士の目線で行っている。色んな子どもと一緒に過ごす場で、支援員がどうかかわっていくか。作業療法士としての専門性を生かしながらアドバイスを行う。障害児対応研修も一方で行っている。中島さんの視点・立場で放課後児童クラブの支援を行っている。年間 260 回訪問。Max18 回/クラブの訪問。</p> <p>中島氏の言葉「子どもの関わり方については勉強が必要と感じた。専門性だけではうまくいかない。そもそもの成り立ちが大事。行政マンと机を並べていることが重要。」</p>  <p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員との関わり方で注意すべき点とは？ ➡みなさんそれぞれの想いや考えを持っているので、それを否定することなく、肯定して、未来の話をさせてもらっている。</li> <li>・うまくいっているクラブとはどんなクラブか？ ➡指導員の工夫があるクラブや他のクラブの情報を共有しているクラブ。</li> <li>・中島さんひとりだけで対応しているのか？ ➡ひとりだけ。</li> <li>・予算は？ ➡再任用の人員費だけで賄えている。</li> <li>・運営委員会の運営方法について事務作業の問題はあるのか？ ➡事務負担が重いという問題は出ている。</li> <li>・66 運営委員長が一度に集う機会はあるのか？ ➡総会 1 回、研修 1 回、それ以外にブロック会も開催している。</li> <li>・子どもの利用者は何人？ ➡約 5,000 人（うち、一割は障害の診断書が出ている。）</li> <li>・教育委員会から情報共有の依頼はないのか？</li> </ul>

	<p>➡学校や支援員さんやクラブによって考え方は様々。学校側もしくはクラブ側の判断で共有しているところ、していないところがある。</p> <p>・指導員の Mtg の内容は？</p> <p>➡毎日行っている Mtg やその日勤務されている Mtg もある。</p>
--	--

日時：	平成 31 年 1 月 12 日（土曜） 13：00～14：30
場所：	二福のびのびクラブ
面会者：	斎藤武次郎市議、所長 河北大樹氏
内容：	<p>□倉敷市二福のびのびクラブの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年から作業療法士（以下、「OT」と記載）のコンサルが始まった。県からの助成金 2～3 年で終わる見込みだった。昨年の五月から OT ひとりの採用を行った。人材育成計画として、発達領域としての勉強（3 年）と支援員としての資格をとってもらう（2 年）。</li> <li>・OT が最初に来た時はとまどいはあったが、話を聞いたら腑に落ちた。それから、OT さんの取り合いになることも。</li> <li>・同意書のなかで、子どもの情報については学校と共有はすることもある。</li> </ul> <div data-bbox="691 894 1117 1234" data-label="Image"> </div> <p>【OT の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 クラス 160 人ほどのこどもたち。1～6 年生が仲間として一緒に生活ができています。</li> <li>・障害児の子どもについては記録をとっている。過去と比べて成長の度合いを測っている段階。</li> </ul>
所感：	<p>学童保育に対する考え方に幅の出た視察となった。行政や学童運営者は、現状の問題・課題の解決のために尽力されている。倉敷市では、作業療法士の方々が学童保育のなかで、その専門性を輝かせている。その取組み効果については、倉敷市長も議会答弁で「効果がある」と答えているほどだ。そして、その効果を一番間近で感じる行政担当者や学童運営者からは、作業療法士の専門性の活用をさらに広げるべくコスト面の課題や職域の課題をどう打破すべきか検討している。また、民間学童保育を運営される方からは、公設であるがゆえにできないことも教えていただいた。今後、学童という捉え方ではなく、「小学生の放課後の過ごし方と人材育成」といった切り口で考えていかなければいけない。そのひとつが学童保育でしかないということを学べた視察となった。</p>